

「安全性向上計画検証報告集会」アピール(案)

107名の尊い命を奪い、500名を超える方々に怪我を負わせた未曾有の鉄道脱線事故から1年。私たちは、JR西日本に働く者として、4月25日を心に刻み、二度とこのような悲惨な事故を起こさないという決意をあらためて心に誓わなければならない。合わせて、組合員3名の命を奪った本年1月24日の伯備線触車事故も、お客様の命を預かる「鉄道員」の安全に対する警鐘として、私たちは決して忘れてはならない。

本日、私たちは「安全性向上計画検証報告集会」を開催し、臨時労使安全会議や専門委員会などを通じて労使で策定した「安全性向上計画」の検証を行い、計画の進捗を検証し、私たちが取り組むべき課題を確認した。

安全ミーティングで出された意見のフィードバックや「事故の芽」報告など、改善すべき点が浮き彫りになったほか、「変わった」とはいかないまでも、多くの組合員が、職場そして自らの行動を変えようという意識を持ち始めており、この意識、行動の変化は、この1年間の私達の取り組みの成果だと言える。残された課題に対しては、一刻も早く対策を講じ、「100%の安全」に限りなく近づけることが私たちの責務である。

私たちは福知山線脱線事故によって、地道につくり上げてきた「安全と信頼」を一瞬にして失った。失った「安全と信頼」を取り戻す道のりは私たちにとって厳しいが、今一度労働組合の原点に戻り、現場の声を確実に会社施策に反映させなければならない。そして、私たちひとり一人がそれぞれの職場で、「おかしいことはおかしい」と声を上げることが、企業風土改革につながることを確信している。

私たち3組合全組合員が、「安全性向上計画」の着実な実行に向け、引き続き検証を行い、労使でしっかりと議論し、常に前を向いて進み、自らの手で「安全・安心」な鉄道を全力でつくり上げることを誓い合い、「安全性向上計画検証報告集会」アピールとする。

2006年4月22日

「安全性向上計画」3組合検証委員会